

## 第32回日本臨床環境医学会学術集会の開催とその成果

Report on The 32th Annual Meeting of The Japanese Society of Clinical Ecology.

網中 雅仁

Masahito AMINAKA

### 要 旨

この報告では、くらしき作陽大学で開催された第32回日本臨床環境医学会学術集会について振り返る。第32回学術集会は2024年6月8日と9日に倉敷市のくらしき作陽大学で開催された。この学術集会のテーマは、“食と健康から環境医学を考える”とした。参加者は89名の国内研究者と8名の海外研究者であった。この学術集会では、堀田国元先生（機能水研究興財団）による特別講演、木村吉伸先生（くらしき作陽大学）と大槻剛巳先生（新庄村内科診療所）による教育講演、シンポジウム6演題、一般演題36演題の講演があり、会長賞は渡井健太郎先生（湘南鎌倉総合病院）、奨励賞は清島大資先生（東海大学）が受賞された。

### Abstract

In this report looking back of the 32th Annual Meeting of Japanese Society of Clinical Ecology at Kurashiki Sakuyo University. The 32th Annual Meeting was held on June 8 and 9, 2024, at Kurashiki Sakuyo University in Kurashiki city. The theme of this Annual Meeting was "Thinking about Environmental Medicine of Clinical Ecology through Food and Nutrition". Participants included 89 researchers from Hokkaido to Kyushu and 8 foreigners. Many Valuable studies were presented from the fields of environmental medicine, hygiene, architecture and nutrition. In this Annual Meeting, talked on special lecture by Ph.D. Kunimoto Hotta (Functional Water Foundation), educational lectures by Prof. Yoshinobu Kimura (Kurashiki Sakuyo University) and Dr. Takemi Ohtsuki (Shinjyo Village Internal Medical Clinic), 6 symposium presentations and 36 general presentations, with Chairman's Award awarded to Dr. Kentaro Watai (Shonan Kamakura General Hospital) and Encouragement Award awarded to Dr. Daisuke Kiyoshima (Tokai University).

### 【はじめに】

日本臨床環境医学会は、1992年4月4日、初代理事長である石川 哲先生を中心に設立された学術団体である。1992年4月4日に北海道旭川市で開催された第1回学術総会から始まり、今回の2024年6月8・9日の2日間、本学で開催した学術総会で第32回を迎えるに至っている。

本学会の設立趣旨は、1990年に始まる。環境に関係する疾患について、臨床の立場から自由に研究発表を行える学際的な学会の設立が検討された。環境化学物質の影響による毒性、特に慢性中毒を論じる学術団体は当時、日本に皆無であった。そのため、有機リン剤、重金属その他の慢性毒性について、主に神経系の研究を行っていた研究者を中心に国内で初めて臨床系の環境医学を中心課題とする学会が設立するに至った。発足当時、理事長は石川 哲（北里大学医学部眼科学教授）、副理事長、安孫子 保（旭川医科大学薬理学教授）、田邊 等（東京都立神経病院院長）、理事に瀬川昌也（瀬川小児神経学クリニック院長）、土井睦雄（横浜市立大学医学部衛生学教授）、和田 攻（東京大学医学部衛生学教授）、事務局長に宮田幹夫（北里大学医学部眼科学教授）、監事に保坂明郎（旭川医科大学眼科学前教授）であった<sup>1, 2)</sup>。

その後、シックハウス症候群やダイオキシン類、環境ホルモンなど社会的ニーズに答えるための中心的な役割を持つ学会として、臨床医学、基礎医学、建築学、環境学、栄養学などの研究者が多くの課題に取り組んでいくことになった。

一方、参加する研究者の研究分野の広がりに合わせて分科会が発足しており、現在、環境アレルギー分科会、環境過敏症分科会、病院・高齢者施設環境分科会の3分科会が活発な研究活動を展開している<sup>3)</sup>。

## 【学術集会の準備】

2022年度、工学院大学での日本臨床環境医学会理事会において、第32回（2024年度）学術集会の大会長および開催地が検討され、全理事一致で網中雅仁理事を大会長に岡山県倉敷市での開催案が決議された。翌年（2023年度）に近畿大学で開催された第31回日本臨床環境医学会学術集会での学会総会において次回開催の大会長として審議、決定された。学術集件事務局として、実行委員長に小倉喜一郎氏（東海大医学部）、実行委員として村田貴俊氏（鶴見大学歯学部）、寺山隼人氏（千葉大学予防医学センター）、佐藤 勉氏（東海大学医学部）にご協力を依頼し、快諾頂くことができた。

小倉氏はこの学術集会以前に開催した第24回日本口腔機能水学会学術大会でも実行委員長としてご尽力頂いており、2度目のタッグを組んでの学術集会開催準備となった。

学術集会のメインテーマとして『食と栄養から環境医学を考える』を掲げ、様々な視点から環境医学にアプローチするプログラムを組ませていただいた。

メインテーマにちなみ、地域医療や健康増進活動における食の問題提起、生化学的視点から捉えたアレルギー問題などにも着目した（図1）。本学学術集会は近年、主催者である大会長が所属する大学での開催が慣例となっており、過去5年間では三重大学、北里大学、東海大学、工学院大学、近畿大学で開催されてきた経緯があった。それらを踏まえ、松田英毅理事長、松田藤夫副理事長、松田光恵学長補佐、木村吉伸学部長に相談し、本学での開催についてご承認頂くことができた。

日程については、本学での大きなイベントとの重複を避け、2024年6月8・9日の両日とした。

## 【倉敷市の後援と助成金申請】

学術集会開催が決定した数か月後、倉敷市および倉敷観光コンベンションビューローに支援を要請した。倉敷市では学際的な学会開催を招聘しており、後援や助成金申請による施設利用割引等を依頼できる。今回、理事会の開催において倉敷美観地区にある倉敷公民館会議室の割引貸与をして頂いた。また、理事懇親会の宴会場ご紹介、新倉敷駅と大学を結ぶシャトルバス運行での支援金交付などでもご協力を頂くことができた。

## 【学術大会の概要<sup>4)</sup>】

第32回日本臨床環境医学会学術集会を2024年6月8・9日の両日、くらしき作陽大学1号館において開催することができた（図2）。その学術集会の様子をここに報告する。

今回のメインテーマは『食と栄養から環境医学を考える』とし、様々な視点から環境医学にアプローチするプログラムを組ませて頂いた。



図1 学術集会ポスター



図2 学会場（1号館）入口

メインテーマにちなみ、地域医療や健康増進活動における食の問題提起、生化学的視点から捉えたアレルギー問題など、とても有意義な学術集会になったものと感じている。

日本臨床環境医学会学術集会が岡山の地で開催されるのは今回で2度目であり、前回は第18回学術集会が大槻剛巳先生（川崎医科大学医学部教授）を大会長に岡山市で開催された。岡山県内での開催は14年ぶりとなった。

山陽本線新倉敷駅にある、くらしき作陽大学にて対面方式により現地開催とさせて頂いた。本学は、新幹線停車駅の新倉敷駅より徒歩12分、山陽道の玉島ICから5分程に位置し、自然に恵まれたキャンパスである。当日は天候に恵まれず雨模様となってしまったが、構内を流れる川に落ちる雨音からも初夏の始まりを感じて頂ければ幸いであったかと思っている。

2日間の学術集会では、国外参加者8名を含む97名の参加者にお越し頂いた。また、近隣にある良寛荘での懇親会には50名を超えるご参加を頂くことができた（図3、4）。



図3 学会場内（1号館125教室）



図4 ポスター学会場内（1号館111教室）

プログラムとしては、特別講演1題、教育講演2題、ランチョンセミナー1題、シンポジウム6題、一般演題36題の講演及び発表をいただき、大変盛況な学術集会となった。

特別講演では、一般財団法人 機能水研究振興財団 理事長 堀田国元先生に「ワンヘルスAMR対策と機能水のポテンシャル」のご講演をお願いした。この特別講演は、無料市民公開講座および本学の特別講義として開催させて頂いた。本学の学生をはじめ、市民の方々の参加もあり、大盛況の特別講演となった。

教育講演（1）では、くらしき作陽大学教授 木村吉伸先生に「植物糖タンパク質の構造特性と生物活性」について講演をお願いした。植物糖鎖が持つ特異的な免疫活性に関するお話等のご教示を頂いた。教育講演（2）では、新庄村国民健康保険内科診療所の大槻剛巳先生から「小さな村の診療所日誌」と題して、川崎医科大学時代の研究から現在の地域医療に関する現状についてご紹介頂くことができた。

第1日目は、テルモ株式会社の提供によるランチョンセミナーを開催した。ランチョンセミナーでは東海大学教授、ルイ・パストゥール医学研究所 佐藤 勉先生による「口腔の健康と機能水：高純度次亜塩素酸水を中心に」と題したセミナーをご提供頂いた。日本臨床医学会において機能水の有用性を分かり易くご教示くださった。

今回の学術集会では、環境アレルギー分科会のご提供による分科会シンポジウム「環境中微粒子の健康影響－CREST研究に学ぶ」と題して、最先端の研究者にお集まりいただき、シンポジウムを開催した。環境アレルギー分科会代表 平 久美子先生（東京女子医科大学）にシンポジウムの趣旨をお話し頂き、シンポジストとしての高野裕久先生（京都大学、京都先端科学大学）による「環境中微粒子の体内、細胞内動態、生体・免疫応答機序の解明と外因的、内因的健康影響決定要因、分子の同定」、奥田知明先生（慶応義塾大学）による「環境化学と毒性学の共同研究を加速させる新規なエア

ロゾル粒子採取技術—サイクロンと水溶性フィルター」、三上剛和先生（新潟大学）による「新規3次元解析法を用いた環境中微粒子曝露モデルマウス肺の検討」、石川良賀先生（京都大学）による「環境中微粒子成分の肺内局在と生体・免疫応答の同視野観察法の構築」、黒田悦史先生（兵庫医科大学）による「微粒子の化学的特性と肺胞マクロファージの活性化 ～炎症を引き起こす微粒子と引き起こさない微粒子～」、濱口真英先生（京都府立医科大学）による「マイクロプラスチック経口曝露と腸内環境・代謝障害」について研究成果をご紹介して頂いた。

学術集会では、これら以外に一般演題として口頭発表24演題、ポスター発表12演題の貴重な研究成果を公表して頂いた。

会長賞は一般演題より、研究内容が今回のメインテーマとの相互性が高く貴重な研究成果であったことから、渡井健太郎先生（湘南鎌倉総合病院免疫・アレルギーセンター）の「アレルギー疾患と甘未菓子類摂取頻度の関係」に授与した。また、奨励賞には機能水研究の今後の展開を期待し、清島大資先生（東海大学医学部医学科基礎医学系生体構造学領域）に授与した。

授与された先生方の研究が、今後益々ご発展することを祈念いたします。

今年の懇親会は、学会場より少し離れた高台にある「良寛荘」での開催となった。新型コロナウイルスもひと段落し、多くの参加者の先生方にも楽しんで頂けるようにとの思いもあり、水島の工場夜景や御料理、本学音楽学部学生有志のサクソフォンアンサンブルによる演奏など、趣向をこらせて頂いた。

第33回学術集会は、2025年6月21日（土）22日（日）に鍵 直樹教授に大会長をお願いして東京工業大学（東京科学大学に名称変更）大岡山キャンパスにおいて開催される予定である。

## 【おわりに】

2日間の会期ではありましたが、無事に第32回日本臨床環境医学会学術集会を終えることができました。これもひとえに理事の先生方や遠路倉敷までお越し頂いた参加者の皆様、そして学術集会の運営に直接携わって頂いた学術集会事務局、実行委員の先生方、学生の皆様方のお力添えによるものでございます。この場をお借りして感謝申し上げます。

本学術集会の実行委員長をお引き受け頂いていた小倉喜一郎先生が、2024年4月14日に急逝されました。小倉先生には学術集会の骨格を企画して頂いていただだけに、ご参加が叶わず大変残念なことでした。小倉先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

## 【参考文献】

- 1) 相澤好治. 日本臨床環境医学会30年間の歩み. 臨床環境医学. 31 : 11-21, 2022.
- 2) 石川 哲. 歴史的考察から：今の臨床環境医学に望むこと. 臨床環境16 : 1, 2007.
- 3) 日本臨床環境医学会 (umin.jp). <http://jsce-ac.umin.jp/index.html> (2024年10月9日現在)
- 4) 第32回日本臨床環境医学会学術集会HP. <http://jsce-symposium.com> (2024年10月9日現在)